

Claude Fable 5 時代と Claude Fable 5.1 時代で

知財業務はどう変わるか

— 公式発表・第三者評価・国内導入事例に基づく整理 —

Claude Fable5.1

2026 年 9 月 5 日

【凡例】本稿では、Anthropic 公式発表等の一次資料または公表された実証事例により確認できた事項を【確定】、筆者の分析・見立てを【分析】として区別する。参考文献は文中に上付き番号で示し、文末に一覧を記す。URL は実際に確認できたもののみ記載し、確認できないものは「URL 未確認」と付記した。情報は 2026 年 9 月 5 日時点。

1. 要旨

- 【確定】 Claude Fable 5（2026 年 6 月 9 日公開）と Claude Fable 5.1（2026 年 9 月 1 日公開）は、いずれも Anthropic の最上位「Mythos-class」モデルの一般提供版である^{1,2}。5→5.1 の中核的变化は、①長時間の自律的タスク遂行（エージェント性）と科学研究支援能力の大幅向上、②キャッシュ読取価格 75%減による実効コストの低下、③セーフガード誤検知の削減、の 3 点である²。
- 【分析】知財業務にとっての本質は、AI が「一問一答の補助ツール」から「数時間～数十時間、監督なしで走る自律エージェント」へ移行した点にある。Fable 5 時代に確立した調査・要約・ドラフト支援は、5.1 時代には中間処理の一括処理、IP ランドスケープ（IPL）初稿の自動生成、発明発掘の壁打ちまで自律化が進むと見込まれる。国内先行事例（MIXI、オムロン、NTT データ、NTT ドコモビジネス×キャノン）が、その方向性を実証しつつある。
- 【確定】一方、AI 発明者は依然として認められない（DABUS 事件確定、USPTO 2025 年 11 月ガイダンス、JPO 2026 年基準）^{3,4,5,6}。Mythos-class 特有のデータ保持（30 日）や誤検知時のフォールバック挙動は、出願前情報を扱う知財部門のガバナンス設計上の必須論点である^{1,2}。

2. モデルの事実確認【確定】

2.1 Claude Fable 5

- 2026 年 6 月 9 日公開。Mythos-class（Opus クラスの上位ティア）を一般利用向けに安全化した初のモデル¹。
- 価格は入力 10 ドル／出力 50 ドル（100 万トークンあたり）。コンテキスト 1M トークン、最大出力 128K トークン¹。
- 公開直後の 6 月 12 日に米政府の輸出規制対応で提供を一時停止、6 月 30 日に規制解除、7 月 1 日に再展開という経緯があった^{1,7}。

2.2 Claude Fable 5.1

- 2026 年 9 月 1 日公開。入出力価格は据え置き、キャッシュ読取は 1 ドル→0.25 ドル（75% 減）。Anthropic は典型的なワークロードで約 25%、高度にエージェント的な作業で最大約 45%の実効コスト減と説明^{2,8,9}。
- アダプティブ・シンキング（adaptive thinking）が常時有効化され、メッセージごとに推論量を調整する effort パラメータ（low／medium／high／xhigh／max）を備える^{2,10}。

2.3 Fable と Mythos の関係、dual-use（両用能力）への追加安全対策

- Fable と Mythos は同一の基盤モデルであり、セーフガードのレベルのみが異なる。Mythos は信頼済みアクセスプログラム（Project Glasswing、Cyber Verification Program、Life Sciences Verification Program）限定で、現状は米国内の一部組織のみが利用できる^{1,2}。
- Fable では、サイバーセキュリティ・生物化学・蒸留（distillation）に関わる要求を検知すると、応答が下位の Opus モデルにフォールバックする（Fable 5 では Opus 4.8、生物学は Opus 5）^{1,2,11}。
- Fable 5.1 では誤検知がサイバーで約 60%減、生物学で約 85%減（初期 Fable 5 比）。脆弱性の「発見」（防御的作業）は許可され、ペネトレーションテスト・エクスプロイト生成・バイナリベースの脆弱性スキャンは引き続き Opus へ迂回する^{2,11}。

- EU AI Act（透明性行動規範、190 超の署名者）への対応として、2026 年 8 月 2 日以降のモデル出力に不可視の電子透かしを付与（利用者情報は含まず、検出 API は限定プレビュー）²。
- Enterprise Frontier Safeguards（EFS）：顧客自身のクラウドにデータを保持（実質ゼロデータ保持）しつつ安全監視を行う枠組み。100 社超および AWS／Google／Azure と共同開発し、2026 年秋から段階提供²。

3.5→5.1 で「実際に」変わったこと【確定】

Anthropic 公表値および第三者評価を整理すると、最大の伸びは「エージェント的な科学研究」と「業務自動化」であり、汎用的な知識労働の伸びは相対的に小さい。

指標	Fable 5	Fable 5.1	備考・出典
Terminal-Bench-Science 0.1（エージェント的な科学研究）	24.7%	52.6%	2 倍超。標準誤差±3.5～4.5pt ^{2,8}
AutomationBench（業務自動化）	17.1%	31.4%	ほぼ倍増 ²
Terminal-Bench 4.0（エージェント的なターミナルコーディング）	42.0%	55.8%	Mythos 5.1 は 60.9%。差＝サイバーセーフガード介入分 ²
GDPval-AA v2（知識労働、Elo）	1723	1853	Opus 5 は 1824 で僅差 ²
Humanity's Last Exam（ツールなし）	57.8%	60.9%	ツールありで 65.0% ²
Artificial Analysis Intelligence Index（max）	62	66	全モデル首位。Opus 5=63、GPT-5.6 Sol=61、Grok 4.6=61 ¹²
Vals Index	66.04%	67.87%	首位。Opus 5=67.21% ⁷
ARC-AGI-1／ARC-AGI-2（max、ARC Prize 独立測定）	—	97.5%／90.0%	¹³
ProofBench v1.1	—	100%	フロンティアモデル初 ⁷

注：Anthropic 公表値はセーフガード有効下での自己申告。SWE-bench は Fable 5.1 について非公表（95.0%／80.0%は Fable 5 の値）。

3.1 重要な注意：「攻めの回答」化とハルシネーション

- **【確定】** Artificial Analysis の AA-Omniscience では、正答率が 67.2%（測定史上最高）に達した一方、誤答時に「回答を試みた」割合が Fable 5 の 63.6%→Fable 5.1 の 72.6%へ上昇し、両効果が相殺して Omniscience Index は横ばいとなった¹²。
- **【確定】** Vals AI によれば、生物・サイバー隣接タスクでのフォールバック（拒否）は依然として頻繁で、フォールバックを失敗扱いにすると一部ベンチのスコアが目減りする（例：Terminal-Bench 2.1 で 85.02%→79.03%）⁷。
- **【分析】** 法務・知財のように出典の正確性が致命的な業務では、この回答傾向は看過できない。5.1 時代は「引用文献の実在性・段落番号レベルの検証」の重要性がむしろ高まる。

4. 「サイエンスエージェント化」の実像

- **【確定】** Anthropic は 5.1 発表で、研究能力を「科学的進歩への初期の兆し」と位置づけた²。公表例：Mythos 5.1 によるタンパク質バインダー設計で 12 ターゲット全体のヒット率約 50%（業界標準 10～15%）、3 ターゲットで既存最良設計比 10 倍の結合親和性；Fable 5.1 が NASA Magellan の約 30 年前のレーダー画像から金星の約 3 分の 1 の標高マップをニューラルネットで再構築（解像度 10～20km→2～3km、CC ライセンスで公開）；Mythos 5.1 による GPU カーネル最適化で 7 つのオープンソースモデルを最大 2.5 倍高速化（ゲノム解析の GPU コスト 30～60%減）^{2,11}。
- **【確定】** 先行して 2026 年 8 月 18 日に公開された「How Claude is accelerating protein design and analytical chemistry」では、Claude（Mythos Preview／Opus 4.8）が 15 ターゲット中 14 で機能するバインダーを設計（ヒット率 22～35%）し、Adaptyv Bio・Twist Bioscience が湿式実験で検証した。化学分析（NMR／LC-MS）では Opus 5 が生の計測ファイルから 25 分未満でレポート化（人手は 30 分～1 時間＋ラボ報告 4 日）^{14,15,16}。
- **【確定】** これら高度な生物学能力は Fable 5.1 では引き続きブロックされ、Mythos 5.1（Life Sciences Verification Program、米政府と連携）限定である。一般利用で使えるのは化学分析（Opus 5 相当）までで、研究生物学の要求は Opus へ迂回する²。
- **【分析】** 「サイエンスエージェント化」は Anthropic 公式の定義用語ではなく、主に第三者メディア・解説者の評価語である^{11,17}。知財の観点では、AI が仮説生成～実験計画～結果

解釈まで自律遂行しうる段階に入ったことを意味し、発明発掘・R&D 連携の性質を変えるとともに、発明者適格性（自然人性）の法的問題を鋭くする（第 7 節 d 参照）。

5. 知財分野の生成 AI 導入事例【確定】

- **NTT データ**：2026 年 8 月 19 日、AI で発明発掘～発明提案書作成を支援するサービスを 2026 年 10 月以降に提供すると発表。「AI が発明を自動生成するものではなく、研究者・開発者の発明発掘を支援するもの」と明言。「第 35 回 2026 知財・情報フェア & コンファレンス」（9 月 16～18 日）で先行展示¹⁸。
- **NTT ドコモビジネス**：2026 年 7 月 30 日、「アイデアシート作成支援 AI エージェント」の提供を開始。キャノンとの実証で、①発明の整理・言語化支援による作成時間の短縮、②対話による思考整理支援による発明者の心理的負担軽減を確認。キャノンは 2026 年 7 月から一部開発部門でパイロット利用。Human in the loop 設計とし、未公開発明を扱うためプライベートクラウド／オンプレで運用。今後、明細書案作成・先行技術調査・拒絶理由対応の AI エージェントも開発予定¹⁹。
- **オムロン**：全社横断の生成 AI 推進「AIZAQ」（2023 年発足、NEC「cotomi」がパートナー）。知財関係者のコメントとして「知財に関する作業を洗い出し、8 割ほどをプロンプト化して生成 AI に任せる」²⁰。研究開発特化基盤「RD Buddy」上に知財 AI エージェントを実装（Amazon Bedrock 上の Claude 3.5 Sonnet、Amazon OpenSearch Serverless + Titan Text Embeddings V2 による意味検索）²¹。定量的な削減率は公開情報では非明示。
- **MIXI**：知財室でチャット AI の一問一答から Claude Code を用いる自律エージェント型へ移行（知財実務オンライン第 281 回、2026 年 4 月配信、知財室長 栗山幸介氏）。PDF 入力のみで拒絶理由対応案・特許査定評価・分割出願方針提案を約 1 時間で一括処理。プロンプト資産を GitHub で管理（出願関連で約 1.8 万行）。今年度目標は「5 人で 30 人分のアウトプット」²²。
- **ツール**：Patentfield（文脈理解アルゴリズムで検索の適合率約 3.8 倍、日米欧中韓台 WO 約 8,000 万件の日本語 AI 要約「AI サマリーグローバル」を 2025 年 10 月正式リリース）、Patentfield AIR（大量特許文書の読解時間約 65%短縮、最大 1 万件に一括適用）²³。このほ

か PatSnap、IPRally、Patlytics、NLPatent 等。多くが GPT／Claude を API 経由で搭載する「生成 AI 統合型」、一部が特許特化の自社 LLM 搭載型²⁴。

6. 特許庁・審査実務側の動き【確定】

- **USPTO**：AI 先行技術調査パイロット（AI Pilot Pre-Examination Utility Application Search、2025 年 10 月～）の受入目標を約 1,600 件→3,200 件以上へ倍増（各技術センター最低 400 件）。2025 年 11 月 28 日の改訂ガイダンス（90 Fed. Reg. 54636）で「生成 AI 等の計算モデルは自然人発明者が使う道具にすぎず、AI は発明者・共同発明者たり得ない」ことを § 101／§ 115 に基づき再確認。Pannu ファクターは自然人間の共同発明判断にのみ適用^{3,4}。
- **JPO**：2026 年 3 月の Status Report・審査ハンドブック改訂で、AI 活用発明の進歩性基準を明確化（「当業者が一般に利用可能な AI ツールを用いて独力で到達できる範囲を超える真の技術的貢献」を要求）、生成 AI 応用・AI 推定手法の新事例を追加⁵。
- **IP5・WIPO・EPO**：五大特許庁は AI 審査で正式に協調（作業部会の設置と共同声明）。WIPO は AI 支援特許検索を導入済み。EPO も審査ワークフローに AI を統合中²⁵。

7. 業務領域別比較：Fable 5 時代 vs Fable 5.1 時代

以下では、知財業務の主要領域ごとに「Fable 5 時代（～2026 年夏）にできていたこと」と「Fable 5.1 時代に変わること・変わりうること」を対比する。各セルに【確定】【分析】を付した。

業務領域	Fable 5 時代（～2026 年夏）	Fable 5.1 時代（2026 年 9 月～）
a. 先行技術調査・無効資料調査・FTO	【確定】1M トークンの長文脈で大量公報の横断読解・要約、検索式の改善、クレームチャート素案の作成が可能に ¹ 。国内ツール（Patentfield AIR 等）で読解時間約 65%短縮を実証 ²³ 。	【分析】エージェント性の向上（AutomationBench 倍増）により、母集合作成→スクリーニング→対比表作成→レポート生成の一連を半自律で実行しうる。 【確定】ただしハルシネーション増傾向のため、引用文献の実在性・段落番号レベルの検証は人間が必須 ¹² 。
b. 明細書・クレームのドラフティング／中間処	【確定】クレーム査読、実施例展開、意見書ドラフト支援。「人間主体・AI 補助」型	【確定】契約レッドライン評価（Crosby「RedlineBench」）で 47.9→57.0、第 1 ターン品質が約 2 倍 ² 。MIXI は拒絶理由対応

業務領域	Fable 5 時代（～2026 年夏）	Fable 5.1 時代（2026 年 9 月～）
理	の明細書作成支援機能が普及。	を約 1 時間で一括処理²²。 【分析】中間処理の定型部分は大きく委任可能に。ただし補正の適法性（新規事項追加の禁止等）の判断は人間の責任として残る。
c. IP ランドスケープ・ポートフォリオ分析	【確定】有価証券報告書等の要約・技術動向の可視化、経営層向けストーリーの下書き。	【分析】長時間自律実行と分析品質の向上（GDPval-AA v2 上昇、AA-Briefcase で分析品質が Opus 5 を上回る）により、複数データソース横断の IPL 初稿を一晩で生成しうる^{2,12}。 【確定】プレゼンテーション面では Opus 5 がやや優位とする測定もあり¹²、【分析】経営判断の「問い」を立てる部分は人間の付加価値として残る。
d. 発明発掘・R&D 連携／AI 発明者問題	【確定】発明提案書の言語化支援（NTT データ、NTT ドコモビジネス、オムロン AIZAQ）^{18,19,21}。	【確定】Mythos 5.1 が新規仮説生成・実験計画まで自律遂行（Rakuten Medical の臨床研究レビューで他 3 モデルが見落としした欠陥を発見し新仮説を提示、Anthropic 公表の顧客証言）²。 【確定】AI 発明者は各国で不可（Thaler v. Vidal 確定、USPTO・JPO・EPO・独 BGH 同旨）。各請求項に少なくとも 1 人の自然人の「重要な貢献（conception）」が必要^{3,6}。 【分析】自律化が進むほど「人間の貢献の記録・立証」が実務の焦点となる。
e. 契約・ライセンス・SEP/FRAND・訴訟	【確定】契約レビュー・レッドライン（Anthropic 自社法務が「数日→数時間」に短縮と公表）、判例分析¹。	【確定】Harvey のマルチモデル化（Claude 導入を 1 か月未満で全面展開）、Freshfields・Quinn Emanuel 等の採用²。ただし Vals AI の Harvey Legal Agent Benchmark で Fable 5.1 は 6.67%（フォールバック失敗扱いで 5.83%）と低く、法務エージェントの実運用は発展途上⁷。 【分析】SEP/FRAND 等の交渉・戦略判断は人間中心。米国では AI チャットの証拠開

業務領域	Fable 5 時代（～2026 年夏）	Fable 5.1 時代（2026 年 9 月～）
		示・秘匿特権リスクにも注意。
f. 組織・人材・ガバナンス	【確定】全トラフィックに 30 日データ保持を義務化（学習には非使用、安全目的のみ、人間アクセスは記録、原則 30 日後削除） ¹ 。	【確定】EFS により顧客クラウド保持＝実質ゼロデータ保持が選択可能（2026 年秋から段階提供）²。新規 API アカウントでは過去の思考ブロックを編集しつつ保持する操作が不可（蒸留対策）、強制ツール使用の挙動変更等の破壊的変更^{2,26}。 【分析】出願前情報を扱う知財部門は、①プライベートクラウド／オンプレ運用、②誤検知フォールバックで機密プロンプトが下位モデルに渡る挙動の理解、③「野良 AI エージェント」の統制、④プロンプト資産の版管理、が要諦。
g. 特許庁側 AI との相互作用	【確定】USPTO が AI 先行技術調査パイロットを開始（2025 年 10 月） ³ 。	【分析】出願人側・審査側の双方が AI を高度化→先行技術発見の早期化、予備補正・審査請求時期・放棄等のデータ駆動判断が可能に。 【確定】AI 活用発明の進歩性ハードルは上昇（JPO 2026）⁵。WIPO の分析では「出願人・庁の双方が技術情報の探索・比較・分析のツールを得る」変化が本質²⁵。

注：【確定】は公式発表・公表実証事例、【分析】は筆者の見立て。

8. 競合との相対位置【確定】

- Fable 5.1 は Artificial Analysis Intelligence Index・Vals Index・ARC-AGI で首位級^{7,12,13}。ただし Opus 5 が知識労働で僅差（GDPval 1824 vs 1853、価格は半額の 5 ドル／25 ドル）であり、Anthropic 自身が「多くの作業はまず Opus 5 から始め、高度な推論・長期エージェント作業で Fable 5.1 を使う」ことを推奨している²。
- 競合は OpenAI GPT-5.6 Sol（Fable 5 と互角と評価され、5.1 投入の背景の一つとされる）、GPT-6 Astra、Google Gemini 3.8 Flash、xAI Grok 4.6、中国系（DeepSeek、Qwen、GLM、Kimi）^{7,12}。GPT-5.6 Sol はコンピュータ操作（OSWorld、BrowseComp）で優位との第三

者評価がある⁷。【分析】用途別に使い分ける「マルチモデル」運用が実務の既定路線となる。

9. 知財部門への推奨アクション【分析】

1. **即時（～3 か月）**：Fable 5.1 を「調査・要約・ドラフト」の日常業務に本格導入する。ただし出典検証プロセスを必須化する。まず半額の Opus 5 で足りるかを評価し、長時間自律・高難度タスクのみ Fable 5.1 へ振り分ける。判断基準は、当該業務群の 8 割超が定型としてプロンプト化できるか（オムロンの実績値）²⁰。
2. **中期（3～9 か月）**：中間処理・IPL 初稿生成をエージェント化し、プロンプト資産を Git 等で版管理する（MIXI 型）²²。データ保持は原則ゼロデータ保持／EFS またはプライベートクラウド・オンプレを前提とし、機密フォールバック挙動と 30 日保持の契約条件を法務・情報システム部門で確認できた段階で本番投入する。
3. **発明発掘・R&D 連携**：AI を「壁打ち・発掘支援」に限定運用し、各請求項の自然人の貢献を記録する運用（発明者性の立証プロセス）を制度化する。最先端の生物学能力は Fable では使えず、Mythos 5.1 は Life Sciences Verification Program 登録・輸出管理・米国内限定という制約を前提とする。
4. **ガバナンス**：野良 AI エージェントの統制、営業秘密管理規程の改訂（AI 入力可否の線引き）、利用規約・データ処理契約（DPA）のレビュー、監査ログ運用、電子透かし・蒸留対策に伴う API 仕様変更の影響確認を先行整備する。
5. **人材**：「AI に委任する業務」と「人間が責任を負う判断（補正適法性、権利化戦略、FRAND 交渉）」の線引きを明文化し、知財担当者をエージェントの設計・検証・戦略の担い手として再定義する。「5 人で 30 人分」（MIXI 目標）を現実的な KPI の参照点とする²²。
6. **見直しトリガー**：Fable 5.1 の独立検証値の公表、Opus 5 との価格・品質差の変動、EFS の正式提供、JPO／USPTO の AI 活用発明ガイダンス更新の際に、上記方針を再評価する。

10. 留意事項

- Anthropic 公表のベンチマークはベンダー自己申告（セーフガード有効下で測定）である。第三者（Artificial Analysis、Vals AI、ARC Prize）は方向性を追認しているが、Artificial Analysis・Vals AI は事前評価で Anthropic に協力しており、完全に独立とはいえない^{7,12}。
- Fable 5.1 の SWE-bench スコアは非公表。一部指標には独立検証がまだない。GPT-5.6 Sol との比較列は Anthropic によるクロスベンダー測定で条件差があり、順位よりも傾向として読むべきである²。
- 国内知財部門固有の削減率の公開情報は限定的である。荏原製作所・キリンについては知財部門固有の生成 AI 成果を確認できず、確認できたのは設計 DX・全社利用の数値のみであった。オムロンの「約 8 割プロンプト化」は関係者コメントが出所であり、RD Buddy の削減率は非公表^{20,21}。
- 「サイエンスエージェント化」は Anthropic 公式用語ではなく、第三者による評価語である。
- 法制度は流動的である。AI 発明者・AI 著作物の適格性は各国で判例・ガイダンスが更新中（南アフリカのみ実体審査なしで DABUS を発明者として受理した例外がある）。最新の官報・判決の確認を推奨する。
- 本稿の作成にあたっては、公開済みの先行整理²⁷も参照した。

11. 総括：5→5.1 で知財業務にとって本質的に変わる 5 点

1. 一問一答から自律エージェントへ：数時間～数十時間、監督なしで中間処理・調査・IPL 初稿を走らせる運用が現実的になった（AutomationBench 17.1%→31.4%、Terminal-Bench-Science 24.7%→52.6%、MIXI の拒絶理由対応約 1 時間）^{2,22}。
2. 実効コスト構造の転換：キャッシュ読取 75%減（1 ドル→0.25 ドル）により、同一文脈を反復読込する知財エージェント運用が経済的に成立する（典型で約 25%、高度エージェントで最大約 45%減）²。

3. 「攻めの回答」化とハルシネーション増：正答率（AA-Omniscience 67.2%）の向上と同時に、誤答時の回答試行率が 63.6%→72.6%へ上昇した。出典検証・引用実在性チェックの重要性がむしろ高まる¹²。
4. サイエンスエージェント化の含意：AI が仮説～実験計画まで自律化するほど、発明者適格性（自然人の貢献の記録・立証）とデータ・セーフガード管理が知財ガバナンスの核心になる。ただし最先端の生物学能力は Fable では封鎖され、Mythos 5.1（米国限定・要審査）に留まる^{2,3,6}。
5. ガバナンス要件の明確化：30 日データ保持、EFS（ゼロデータ保持）、蒸留対策による API 仕様変更、電子透かし（EU AI Act）といった Mythos-class 特有の規律が、出願前情報を扱う知財部門の運用設計そのものを規定するようになった^{1,2}。

参考文献

- [1] Anthropic, “Claude Fable 5 and Claude Mythos 5”, Anthropic News, 2026 年 6 月 9 日.
<https://www.anthropic.com/news/claude-fable-5-mythos-5>
- [2] Anthropic, “Introducing Claude Fable 5.1 and Claude Mythos 5.1”, 2026 年 9 月 1 日.
<https://www.anthropic.com/claude-fable-and-mythos-5-1>
- [3] USPTO, Revised Inventorship Guidance for AI-Assisted Inventions, 90 Fed. Reg. 54636（2025 年 11 月 28 日）；AI Pilot Pre-Examination Utility Application Search（2025 年 10 月開始）。（URL 未確認（官報引用番号により特定））
- [4] IPWatchdog, “USPTO AI Guidance Reiterates DABUS Decision”, 2024 年 2 月 12 日.
<https://ipwatchdog.com/2024/02/12/uspto-ai-guidance-reiterates-dabus-decision/>
- [5] 特許庁 Status Report 2026 および特許・実用新案審査ハンドブック改訂（AI 関連技術に関する事例追加）, 2026 年 3 月。（URL 未確認）
- [6] Thaler v. Vidal, 43 F.4th 1207 (Fed. Cir. 2022), cert. denied（2023 年）；Thaler v. Perlmutter（著作権）, cert. denied（2026 年 3 月 2 日）。（判例（URL 記載なし））
- [7] Vals AI, “Claude Fable 5.1”（第三者評価ページ：Vals Index、Harvey Legal Agent Benchmark、ProofBench 等）, 2026 年 9 月閲覧.
https://www.vals.ai/models/anthropic_claude-fable-5-1
- [8] MarkTechPost, “Anthropic Releases Claude Fable 5.1 and Claude Mythos 5.1: 52.6% on Terminal-Bench-Science and 75% Cheaper Cache Reads”, 2026 年 9 月 1 日.
<https://www.marktechpost.com/2026/09/01/anthropic-releases-claude-fable-5-1-and-claude-mythos-5-1-52-6-on-terminal-bench-science-and-75-cheaper-cache-reads/>
- [9] Thurrott.com, “Anthropic Releases Claude Fable 5.1 and Mythos 5.1”, 2026 年 9 月。

<https://www.thurrott.com/a-i/anthropic/340951/anthropic-releases-claude-fable-5-1-and-mythos-5-1>

- [10] Data Science Dojo, “Claude Fable 5.1: Benchmarks, pricing, and safety changes”, 2026 年 9 月.
<https://datasciencedojo.com/blog/claude-fable-5-1-performance-and-safety/>
- [11] テクノエッジ「Claude Fable 5.1 提供開始 セーフガード誤介入が大幅減、性能向上で半額以下のタスクも。『AI が科学の進歩に貢献する未来の先駆け』」2026 年 9 月 2 日. <https://www.techno-edge.net/article/2026/09/02/5454.html>
- [12] Artificial Analysis, Claude Fable 5.1 評価 (Intelligence Index、AA-Omniscience、AA-Briefcase) , 2026 年 9 月. (URL 未確認: 数値は第三者記事および Vals AI 経由で確認したもので、Artificial Analysis 原典ページの直接確認は未了)
- [13] ARC Prize Foundation, Claude Fable 5.1 の ARC-AGI-1/ARC-AGI-2 独立検証結果, 2026 年 9 月. (URL 未確認)
- [14] The Next Web, “Anthropic says Claude designed working protein binders, and beat human experts on some”, 2026 年 8 月. <https://thenextweb.com/news/anthropic-claude-protein-design-chemistry>
- [15] Adaptiv Bio, “Case study: Benchmarking Claude’s protein designs in the wet lab”, 2026 年 8 月.
<https://www.adaptivbio.com/blog/anthropic-1>
- [16] Anthropic, “How Claude is accelerating protein design and analytical chemistry”, 2026 年 8 月 18 日.
(Anthropic 原典 URL は未確認。Twist Bioscience 公式 X 投稿
<https://x.com/TwistBioscience/status/2090061586396307735> 経由で記事の存在・題名を確認)
- [17] asi.tokyo 「Fable 5.1 がついに登場。現実とは思えない出来です。」2026 年 9 月 2 日.
<https://asi.tokyo/2026/09/02/fable-5-1%E3%81%8C%E3%81%A4%E3%81%84%E3%81%AB%E7%99%BB%E5%A0%B4%E3%80%82%E7%8F%BE%E5%AE%9F%E3%81%A8%E3%81%AF%E6%80%9D%E3%81%88%E3%81%AA%E3%81%84%E5%87%BA%E6%9D%A5%E3%81%A7%E3%81%99%E3%80%82/>
- [18] NTT データ「AI を活用した発明発掘支援サービス」先行提供開始に関する発表 (2026 年 8 月 19 日、日本経済新聞報道および同社リリース) . (URL 未確認)
- [19] NTT ドコモビジネス プレスリリース「アイデアシート作成支援 AI エージェント」提供開始 (キャノンの実証結果を含む) , ntt.com, 2026 年 7 月 30 日. (URL 未確認)
- [20] NEC「wisdom」および東洋経済オンライン (2025 年 2 月) : オムロン全社生成 AI 推進「AIZAQ」に関する記事・知財関係者コメント. (URL 未確認)
- [21] AWS builders.flash「オムロン 知財 AI エージェント構築事例」 (オムロン社員著) , 2025 年 11 月.
<https://aws.amazon.com/jp/builders-flash/202511/omron-intellectual-property-ai-agent>
- [22] 知財実務オンライン 第 281 回「AI エージェントと変える企業知財 (MIXI 知財室)」 (栗山幸介氏、2026 年 4 月配信) / よろず知財戦略コンサルティング ブログによる内容整理.
<https://yoroziuipsc.com/blog/aimixi>

- [23] Patentfield 株式会社 公式サイト（「AI サマリーグローバル」2025 年 10 月正式リリース、Patentfield AIR 製品情報）。（URL 未確認）
- [24] よろず知財戦略コンサルティング「IP ランドスケープ特化型生成 AI ツール徹底分析レポート」。
<https://yorozuipsc.com/uploads/1/3/2/5/132566344/d41c38cbce590a7b10c4.pdf>
- [25] Lexology, “Agentic AI and the Patent Office: What WIPO’s 2026 Report Means for Prosecution Strategy”, 2026 年. <https://www.lexology.com/library/detail.aspx?g=f26d17b0-ca45-47a6-af85-57a1fa95ae5d>
- [26] Anthropic Claude Developer Platform リリースノート（思考ブロック保持・強制ツール使用に関する仕様変更の告知），2026 年 9 月。（URL 未確認）
- [27] よろず知財戦略コンサルティング「Claude Fable 5.1 / Mythos 5.1 調査レポート」, 2026 年 9 月。
<https://yorozuipsc.com/uploads/1/3/2/5/132566344/c995b2c41d5ea48272f5.pdf>